

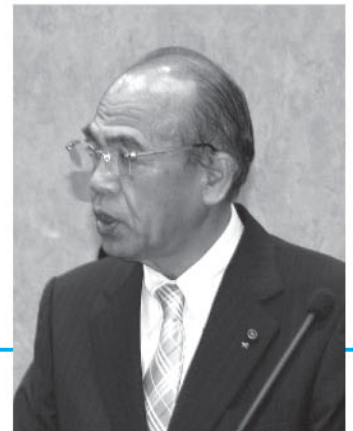


風疹の予防接種風景

問 「遠野物語」発刊100周年を記念し、語り部100人プロジェクト事業が行われている。昔話、郷土芸能、歴史、食、そして生業の5部門の人材を募っているが、遠野郷を語るとき、「自然」というジャンルは必要なのか。

答 この事業は、5部門に絞ってスタートしたが、遠野の観光や文化を語るとき、「自然」というジャンルはなくてはならないものと考えられる。今後さらに、市民の理解を頂きながら「自然」などの新たな部門設定を検討したい。

問 女性特有のがん予防対策が求められている。子宮頸がんの予防ワクチン接種は半年で4回、費用は5万円前後と



石橋 達八 議員 (無会派)

がん予防の ワクチン接種に 公費助成を

高額であることから他自治体では公費助成をしている。遠野市ではどう対応するか。また、乳幼児のヒブワクチンの接種についても当市の取り組みを伺う。

答 今後の産直運営は、原点に立ち返り、新鮮で品質の良いものを消費者の視点で販売することは当然、他にないような特徴的な取組みが必要になる。タフビジョンでは、地域で生産された農産物の地域内消費の拡大と、生産者と消費者との結びつきを強め、顔が見える流通の取組みを推進することや、品揃えの確保をはかるため産直間のネットワーキ化なども検討しながら、販売力や営業力を高めたいと考えている。なお、競争の激化を招く恐れもあることから、「産直かみごう」の整備により、市内の産直施設整備は原則完了する事になる。

問 産直は、農家の所得確保や地域活性化にも大きな役割を担っているが、

答 今年度から、全妊婦を対象に子宮頸がん検診への全額助成を行う。また、無料クーポン券配布事業を継続するため6月補正予算に計上した。子宮頸がん予防ワクチンの接種については、今年を必要性・重要性の普及啓発の準備期間とし、次年度事業として取り組む。ヒブワクチンの接種については「子育てするなら遠野市」や「わらすっこ条例」の理念を尊重し、前向きに対応したい。

注1 ヒブ(Hib)とは…「インフルエンザ菌b型」という細菌のこと。冬に流行るインフルエンザの病原体とは、全く別もの。細菌性髄膜炎や敗血症などの深刻な病気を引き起こす。